

# 病害虫発生予察特殊報 第 5 号

病害虫名 セイヨウナシ腐らん病

病原菌名 *Valsa ceratosperma*

## 1 発生の経過と被害

平成 7 年 5 月、中野市田麦の西洋なし栽培ほ場で、主幹部が赤褐色に腐敗する障害が発生した。3～4 年生の側枝にも同様の障害がみられ、被害部から先は枯死した。

この障害はりんごに発生する腐らん病の病徴と酷似しており、昭和 47 年北海道において西洋なしに発生が確認された *Valsa Ceratosperma* による腐らん病と考えられた。

その後の調査では中野市、長野市、上水内部三水村、上水内部牟礼村、東筑摩郡山形村、松本市のいずれもわい性台樹のラ・フランスで発生が確認された。発病樹率は北信地方が 3.0%、中信地方 3.5% であった。南信地方では発生がみられなかった。

## 2 病原菌の分離、同定

被害部から病原菌を分離したところ、PDA 培地上ではじめ淡褐色で後に灰褐色、柄子殻子座を形成する糸状菌が高率に検出された。また、被害部に形成された子座内の子のう胞子、柄胞子の形態比較を行った結果、リンゴ腐らん病菌、ナシ類腐らん病菌の記載とほぼ一致した。

このことから本病原菌を *V. Ceratosperma*(Tode ex Fries)Maire と同定し、本病をセイヨウナシ腐らん病と診断した。

分離菌を西洋なしおよびりんごの 1 年枝の切り口に接種したところ、病原性が確認され、病斑部から接種菌が再分離された。また、りんご由来の腐らん病菌を西洋なしに接種したところ、同様に発病して接種菌が再分離された。このことから、腐らん病菌はりんごと西洋なし相互に感染することが明らかとなった。

## 3 病徴と診断

主幹及び 3～4 年枝に発生が多い。春先の病斑部は赤褐色を呈し、樹皮は剥がれやすく、アルコール臭を発する。5 月頃から病斑上に黒色小粒点の子座が多数形成され、鮫肌状になる。子座内に形成された柄子殻から黄色、巻き髭状の胞子角が噴出される。

発生が多い園の近傍には腐らん病が多発したりりんご園のある場合が多かった。また、剪定痕からの感染が多かった。

## 4 防除対策

- (1) 定期的に国内を点検して、早期発見、治療に努める。胴腐らんは完全に削り取り、胴枯病防除を兼ねてトップジン M ペーストを塗布する。枝腐らんは剪除して焼却する。
- (2) 剪定痕などの切り日から感染する機会が多い。胴枯病防除を兼ねて剪定痕にはトップジン M ペーストを塗布し、発芽前には石灰硫黄合剤を散布する。
- (3) 西洋なしに発生する腐らん病菌は、りんごに発生する腐らん病菌と同一であり相互に感染する。したがって、近隣のリンゴ腐らん病の防除もあわせて実施する。